

《研究ノート》

シンガポールの幼児教育・保育(2) — 質の認証システム SPARK に注目して —

埋 橋 玲 子

はじめに

TIMSS¹⁾ や PISA といった国際学力テストで、シンガポールは常にトップクラスの成績を取め、海外から多くの注目を浴びている。「選抜」と「競争」に裏打ちされた教育制度は優秀な生徒の学力水準を高いものに保つが、その影響は幼児教育にも及ぶ。小学校の卒業時には試験を課されてその後の進路が振り分けられてしまうという現実を受け、親は子どもの将来を考え、就学前教育に力が入るのは無理もない。「早ければ早いほど良い」という通念のもと、スタート地点で後れを取らないよう、幼稚園や保育所での「読み書き算数」、言語の学習、コンピュータの導入は珍しいことではない²⁾。

とはいえ1997年には「Thinking School, Learning Nation(考える学校, 学ぶ国家)」と表現される新たなビジョンが提唱され、一人ひとりの多様な能力の発展を目指す教育システムへの変革が開始された。さらに2005年には「Teach Less, Learn More(より少なく教え, より多く学ぶ)」の理念が発表され、以後、試験のためではなくライフスキルの習得や問題解決能力の醸成に力点が置かれるようになっていく^{3), 4)}。

このような国の教育政策の転換、また1990年代より顕著となった乳幼児期の早期介入の重要性に注目する国際的なトレンドは、シンガポールの就学前教育にも方向転換をもたらした。2003年に発行された就学前教育のガイドラインとなるフレームワーク NEL(= Nurturing Early Learner [幼い学び手を育てる], 2012年改訂⁵⁾)では、遊びや体験を重視する学習を標榜した。加えて政府は、より効果的に幼児教育・保育サービスを提供するために、省の枠を超えて合理的な政策実行を可能にする目的で ECDA(= Early Childhood Development Agency, 幼年期開発局)というエージェンシーを2013年に設置した。

ECDA の行う事業のひとつが、幼児教育・保育の質の向上をめざす、SPARK と名付けられた認証システムである。SPARK そのものは ECDA の設立よりも早く2011年に開始された。保育の質を測定する尺度 QRS(= Quality Rating System)を開発し、各施設での自己評価および外部評価のツールとして使用することで就学前教育の質の向上を目指している。

我が国においては、現在幼稚園に対しては「学校評価」、保育所に対しては「第三者評価」という外部評価がある。どのような評価方法であっても個別の施設の特性をすべて評価できるものではなく、これらの公的な評価手段とは別に、常によりよい評価はどのようなものであるかが模索されている。そこで本稿では SPARK の成立からの経緯と実施状況、その内容を明らかにすることで、我が国における幼児教育・保育の質の向上をめざす「評価」の在り方を探る

一助としたい。

1. ECDA について

先にも述べたように、シンガポール政府は幼児教育・保育サービスをより効果的に提供するために、省の枠を超えて合理的な政策実行を可能にする目的でエージェンシーを2013年に設置した。それが ECDA⁶⁾である。

(1) 概 要

幼児教育・保育サービスを法に基づいて提供する機関にはキンダーガーデン(幼稚園, 以下 KG)とチャイルドケアセンター(保育所, 以下 CCC)の2種類があり, KG は教育省(Ministry of Education, 以下 MOE)の管轄下にあり, CCC は社会・家族開発省(Ministry of Social and Family Development, 以下 MSF)により営業許可を与えられている。ECDA は MOE と MSF 双方の監督下にあり, 拠点は MSF に置かれている。ECDA は7歳までの子どもの発達の局面にかかわり, KG と CCC の両方の監督にあたる。

ECDA は「すべての子どもによいスタートを A Good Start For Every Child」という理念を掲げ, 「すべての子どもに適正な価格で乳幼児期の発達を促進する質の高いサービスの提供を確実にする」ことを使命とする。具体的には, 「提供を確実にする accessibility」ためにインフラ整備とマンパワーのマスタープランを作成・実行し「適切な価格 affordability」のために補助金や助成金を支給し, 「質の高いサービス quality」のために法的整備・質の認証・資源の供給, 保育従事者の専門性の向上の機会提供, 社会教育とアウトリーチをとおして家庭との連携を行う。このとき「ケア care, 関与 commitment, 協同 collaboration」という3つのCを中核的価値とする(図1)。

総じて, 何かにつけ図1のようなイメージにまとめることが非常に巧みである。「3つのC」



図1 ECDA のイメージ (出所: ECDA の HP)



図2 ECDAの事業展開 (出所：ECDAのHPより埋橋玲子作成)

など頭文字で韻を踏んだキャッチコピー等の工夫が随所に見られ、目標を意識化し、共有する術に長けている。ECDAは、保育従事者の専門性を向上させそのイメージアップを図ろうとしており、優秀な人材のリクルートのために多様なパートナーシップを形成し方略を実行している。その点からも巧みなPRが求められるのであり、イメージの提示やキャッチコピーの果たす役割は大きいものであろう。

(2) ECDAの事業展開

理念で示されているように「すべての子どもに良いスタートを」実現させるにあたりECDAの使命「すべての子どもに適正な価格で乳幼児期の発達を促進する質の高いサービスの提供を確実にする」を遂行するためには、オペレーター(施設運営者)、保護者、保育者という3者との関わりが相互に関連しながら展開されていくことになる。これらを主な4のイニシアティブのロゴを用いて図示すると図2のようになる。

2. SPARKの成り立ち

(1) 概要

SPARKはSingapore Pre-school Accreditation Frameworkの省略形で、ECDAの「質の高いサービス」に関する事業の一つである。ECDAの立ち上げよりも早く、2010年にMOEによって設置され、受審の募集は2011年より開始されている。MOEはSPARKの設立に先立ち2008年より、保育の質の認証システムについて国外の各国の状況のレビューを行い、国内外の幼児教育・保育の専門家により協議を重ねていた。

シンガポールの現状に合わせて開発された保育の質の評価尺度QRS(後述)が開発され、このQRSを用いてKGやCCCでアセスメントを実施し、一定のレベルに達している場合に当該園にSPARK認証が与えられる。QRSにより2点以上(後述)であれば認証が与えられ、この認証は3年間有効であり、高いレベルの施設には〔推奨〕が与えられる。2016年10月現在で601の

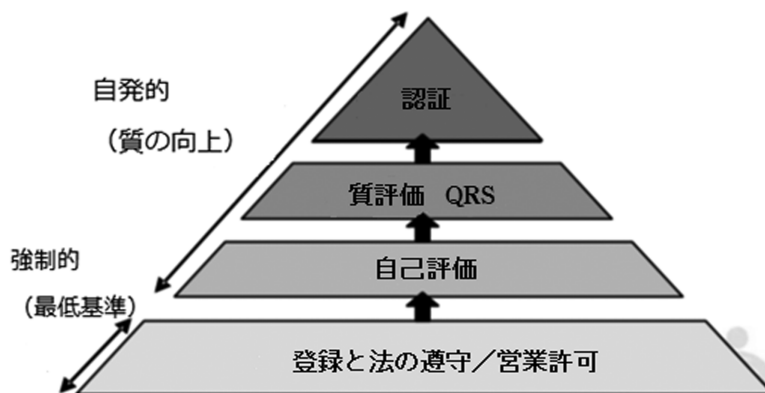


図3 SPARKの仕組み (出所: ECDAのHPより埋橋玲子作成)

園が認証を与えられたが、これは園全体の3分の一を占める。うち70か所は〔推奨〕を得ている。〔推奨〕が与えられるようになったのは2015年以降のことである。

(2) 仕組み

SPARKは図3に示すように、営業許可を得て最低基準は満たしているKGまたはCCCが、自発的に自己評価と外部評価を経て認証に至ることにより、質の向上を図ろうとするシステムである。2011年に開始されたが、2014年に3年間の有効期限が切れて再認証をを求める園では、教授と学び(Teaching & Learning)に著しい進歩がみられた。

(3) 実施のプロセス

アセスメントのプロセスは図4に示すとおりである。応募に際しては説明会(briefing)が行われるがその内容についてはECDAのHPで公開されている⁷⁾。年4回受審の募集があり(2月, 4月, 7月, 10月), 2週間の受付期間が設けられる。受審資格は、当該施設が法的基準を満たして営業許可をもち、開設より1年以上経過していることである。受審にあたっては申し込み費用\$400を支払い、資料3部を提出しなくてはならない(表1)。

審査には2人のアセッサーによる2日の現地での保育観察とインタビュー、評定を裏付ける資料の点検(過去1年分、場合により過去3年)及び1日の報告書作成の3日間が設定される。アセッサーから提出された報告書はECDAの委員会により精査され、最終結果がまとめられる(図4)。QRSのスコアが2以上あれば認証が与えられ、結果はアセッサーより「成果Outcome」, 「長所Strengths」, 「改善点Areas for improvement」が示される。この認証は3年間有効である。認証を受けた園は、\$400のコストで、アセスメント・レポート、バナー、ECDAのウェブサイトのリストへの掲載、SPARKロゴの使用許可、セレモニーへの参加や認証証明書、銘板などが与えられる。

アセスメントを受ける施設側に必要な費用は、受審を申し込む際の\$400である。これとは別に全体としては1施設でのアセスメント実施に必要な経費は、人件費等を合計すると\$4000

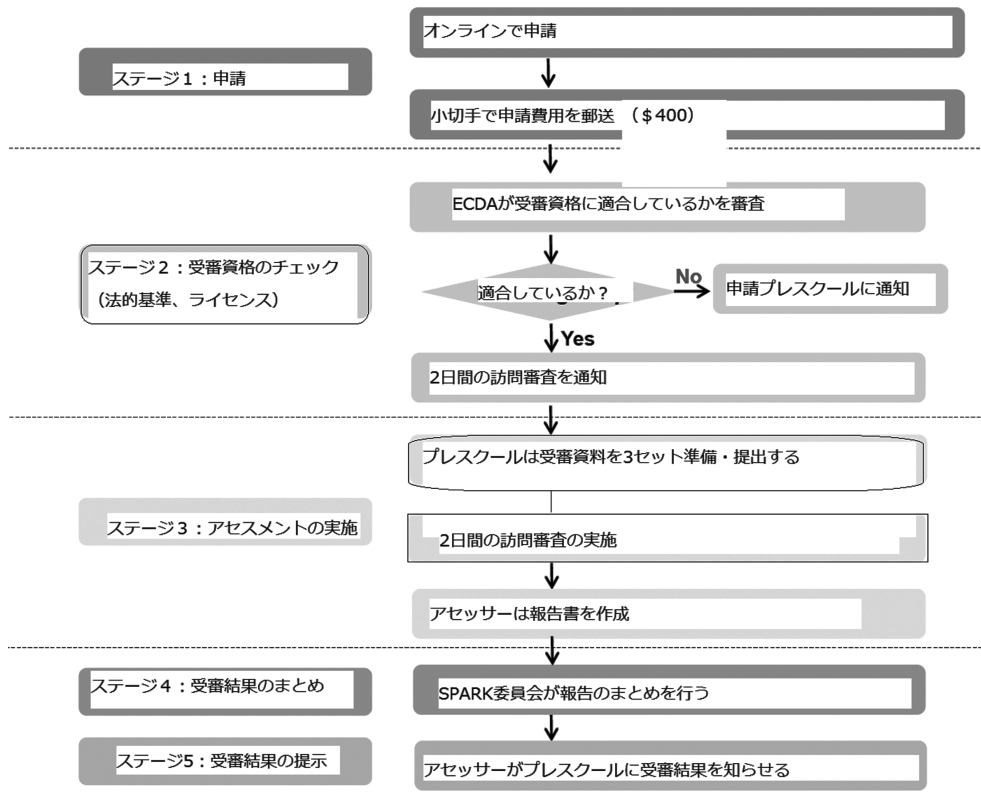


図4 アセスメントのプロセス (出所：ECDA のHP より埋橋玲子作成)

表1 提出資料リスト

<input checked="" type="checkbox"/>	前年度 自己評価 (QRS を用いる)
<input checked="" type="checkbox"/>	今年度のアクションプラン
<input checked="" type="checkbox"/>	施設の概要とスタッフのリスト
<input checked="" type="checkbox"/>	各クラスのタイム・テーブル
<input checked="" type="checkbox"/>	各学年の年間カリキュラム
<input checked="" type="checkbox"/>	アセスメント実施の週の指導計画

が必要となる。これらは ECDA の負担となる。キャパシティとしては1か月あたり30施設でのアセスメントが行われている。アセッサーは ECDA の常勤職員もいれば嘱託職員もおり、その経歴としてはもと小学校校長やもと教科主任などである。任命されたものもいれば、公募に応じたものもいる。

(4) ECDA によるサポート

受審についての説明会だけではなく、複数の研修会やコーチングの機会が提供されている。これから自己評価を始めて受審しようとする園に対しては管理職や保育者に対して2日間のQRS ワークショップが行われ、費用は ECDA が負担する(各園2名までの参加)。2016年は3月

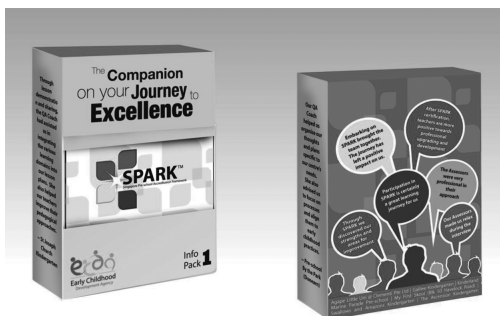


写真1 インフォメーションパック1の表裏面 (出所: ECDA のHP)



写真2 インフォメーションパック2 (出所: ECDA のHP)

(2回), 5月, 6月, 11月(2回)と計6回実施されている。このワークショップにより質の向上のために模範となる良い実践について学び, 毎年の自己評価のためにQRSをどう使うかについて学ぶことができる。また, 申し込みにより条件が整えばQAC(=Quality Assurance Coaching, 質認証コーチング)を受けることができる。こちらはECDAが80%の費用を負担し, 対象となる園は\$250のみ負担する。このコーチングを終了しアセスメントが受講できるまでに1年を必要とする。

再認証を受ける準備として, 2日間のアクションプラン作成と再認証のためのワークショップが行われる。これについても費用はECDAが負担し(各園2名までの参加), 2016年は3月, 5月, 11月の3回実施される。これとは別にECDAからの招待に限られるが, SPARK再認証ワークショップが実施される。

いろいろな教材も配布され, その一例がカード形式のインフォメーションパックである(写真1)。カードにQ&A形式でSPARKやQRSの仕組みが示され, ゲーム感覚で学べるようになっている。この他再受審用のインフォメーションパック(写真2)もあり, その他カレンダーや文具なども配布されている。

3. QRSについて

(1) 構成

QRSはECERS-R, ECERS-E, PASというすでに国際的に認知されている保育の質評価尺

表2 QRSの構成

分類		項目(20)		指標数 (168)
1	リーダーシップ	1.1	戦略的リーダーシップ	9
		1.2	カリキュラム編成における施設リーダーの役割	9
2	計画と運営	2.1	戦略的計画	9
		2.2	プログラム構造と実施	9
		2.3	運営/管理	6
3	スタッフ管理	3.1	新任者と配置	9
		3.2	専門性の開発とパフォーマンスの評価	9
		3.3	スタッフの幸福	6
4	資源	4.1	指導と学習の環境と資源	12
		4.2	両親との協力	6
		4.3	地域との協力	9
5	カリキュラム	5.1	総合的カリキュラムと全人的発達	9
		5.2	美学と創造的表現	12
		5.3	世界の発見	6
		5.4	言語と識字	15
		5.5	運動技能の発達	9
		5.6	数的感覚	6
		5.7	社会的情動的発達	6
6	教授法	6.1	教授法の一般原理	9
		6.2	子どもの学習と発達のアセスメント	6

(出所：SPARK (2014) *Singapore Pre-school Accreditation Framework Quality Rating Scale* より埋橋玲子作成)

度をモデルとし、シンガポールの就学前教育の場面で使用できるように作り出された。ECERS-EとPASはECERS-Rの様式と評点方法をそのまま踏襲しているが、QRSは様式を変更し評点方法は踏襲している。

QRSは6分野20項目、168項目で構成されている。その全体は表2に示すとおりである。各項目にいくつかの指標があり、各指標がどの程度実行できているかの評定を行い、項目ごとの実行の度合いを1から6ポイントに点数化し「要改善 Emerging」「実行 Performing」「熟達 Mastering」の3つのレベルで示す。

(2) 質評価のモデル

QRSで測定しようとする質のモデルは図5に示すところである。構造・プロセス・アウトカムのうち、構造・プロセスの6のクライテリアについてアセスメントを行う。図のプロセスのうち「保健衛生と安全」については、設置の最低基準として法で定められていることを理由にアセスメントの対象とはなっていない(最初は含まれていた)。QRSは子どもにあらわれるア

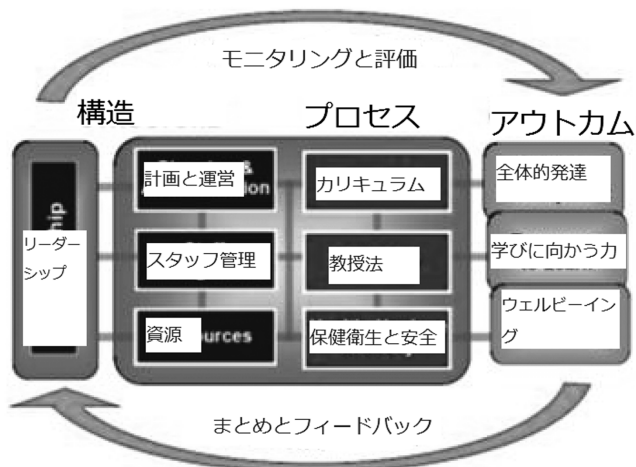


図5 QRSの質のモデル (出所：ECDAのHPより埋橋玲子作成)

アウトカムを測定しようとするものではない。だが、QRSが構造・プロセスの質を規定する7のクライテリアが、子どもの全体的発達・学びに向かう力・自分自身をケアする力をもたらすものであると考えられている。

(3) QRSにみるリーダーシップの重視

2016年9月に、日本では最初の保育の質に関する大規模アンケート調査の結果が発表された⁸⁾。調査の設計として注目されることの 하나가、実施運営に関し園長や主任のリーダーシップの重要性の想定である。調査結果では、リーダーシップの構造として①組織の運営・園の風土、②専門性向上の支援、③日々の保育実践の援助、④方針・理念の明示、⑤保護者との連携と5つの観点が見いだされた。またこれら5つのリーダーシップの得点が高いほど保育のプロセスの質が高いという関係が見いだされた。

この結論とSPARK-QRS(以下SQ)の質評価のモデルおよび項目内容を対照すると、④方針・理念の明示に相当する項目がSQの<1.1戦略的リーダーシップ>と<1.2カリキュラム編成における施設リーダーの役割>に相当し、この2項目が他の①②③⑤およびプロセスの質を総括する位置を占めていることがわかる。つまりSQの保育の質のモデルでは、園長等の施設リーダーが明確に園の経営理念・方針を理解し他者に説明ができかつ保育実践や日常業務に着実に具体化させることを求めているのである。

筆者は2016年8月にアセスメントに同行し観察する機会があった。園長等に対するインタビューでは、子どものアウトカムにつき理解が十分であるかどうか、また当該園の示す教育理念とアウトカムの関連性を実際の保育・業務内容に対照させながら園長等が的確に説明できるかどうかを、質問によりアセッサーが精査するようすがうかがえた。

(4) QRSにみる教育方法

QRSのクライテリア<4. 資源><5. カリキュラム><6. 教授法>が教育方法に関係

する部分であり、これらは3.1から5.7までの13項目で構成されている。教育に関する部分の根拠は、先に述べた、MOEがガイドラインとして発行しているNELにある。また、QRSが作成されるにあたってその発想をもたらしたのは国際的に広く認知されているECERS-RおよびECERS-Eである⁹⁾。NELが出発点とするのは「子どもは好奇心に満ち、能動的で有能な学び手である」という乳幼児についての「信念」である。これは幼児教育・保育にあたり最新の科学的知見をもとに形成された概念であり、国際的に共有されている。ECERS-RおよびECERS-Eにも通底する概念であり、この2つのスケールに共通する前提は、教師とは子どもの好奇心を引き出す物的環境を整えることや相互関係を通して子どもの学びをファシリテートする存在である、という理解である。子どもの学び・発達は総合的なものであるが日本でいうところの「領域」と同様の概念を採用し6の学びの分野(learning area)を定義しているが、この考え方も国際的に共有されている。

NELでは真正的・創造的表現、世界の発見、リテラシー、運動技能の発達、ニューメラシー、社会的・情緒的発達という6の学びの分野を示し、それらを統合して子どもの学びにアプローチする(integrated approach to learning)、その際に教師は学びのファシリテーターとなる(Teachers as facilitators of learning)、子どもがねらいを持った遊びを通して学ぶことを促す(engaging children in learning through purposeful play)、質の高い相互関係を通して本質的な学び

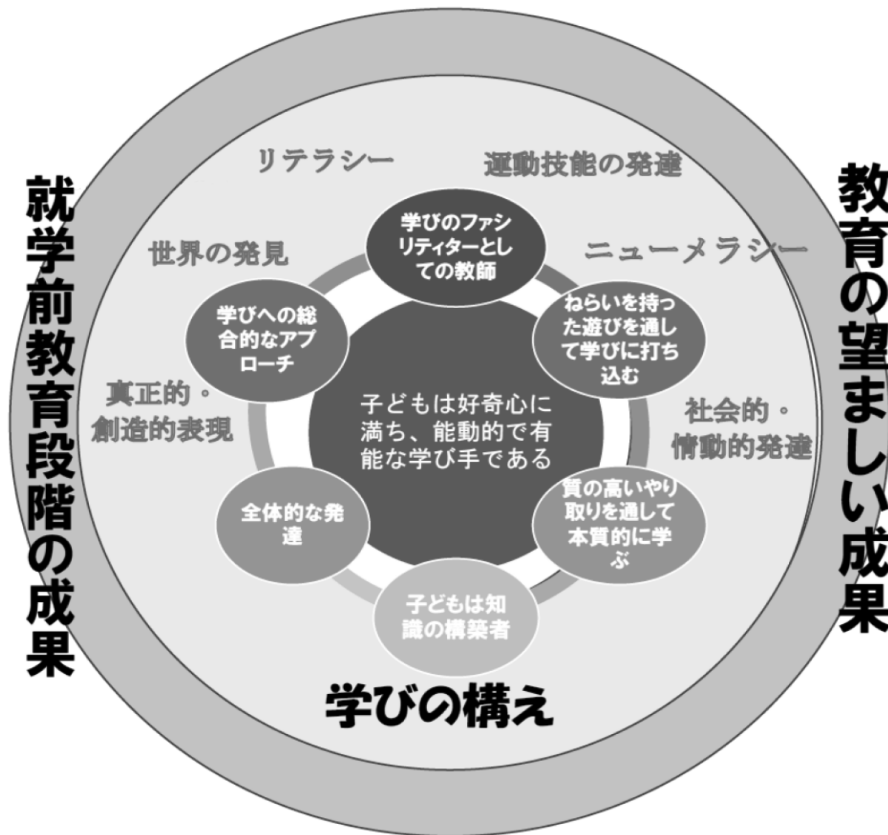


図6 QRSの質のモデル (出所：NEL〔注5、p25〕より埋橋玲子作成)

表3 KGの日課の一例

時間(am)		月	火	水	木	金
8:00-8:10	10分	登園	登園	登園	登園	登園
8:10-8:50	40分	大グループ	大グループ	(8:10-8:40) 全体集会	大グループ	大グループ
8:50-9:10	20分	フォニックス	フォニックス		リーダー	リーダー
9:10-9:30	20分	間食	間食	大グループ	間食	間食
9:30-10:30	60分	母語	母語	造形	母語	母語
10:30-11:10	40分	M&M	室内運動	間食	環境	戸外運動
11:10-11:50	40分	フォニックス	フォニックス	母語	リーダー	リーダー
11:50-12:00	10分	降園	降園	11:20降園	降園	降園

*注 水曜日は時間が少し異なる。(出所:埋橋玲子訪問園の資料)

(authentic learning through quality interactions)をもたらし、子どもを知の構築者(children as constructors of knowledge)とし、ホリスティックな発達(holistic development)を達成する、そして学びの構えを涵養するという全体像が描かれている(図6)¹⁰⁾。この全体像についてiTeachという各フレーズの頭文字をとったキャッチコピーで印象付けて実践の手掛かりとしている。

以上のような、QRSがその審査の基準とするところのNELの理論的枠組みには違和感はない。しかし実際にその理論が実際の幼児教育・保育に現実化すると、ECERS-RおよびECERS-Eが想定する幼児教育・保育シーンとはかなり異なる。顕著に表れているのは日課である。表3に示す日課は一例でKGとしては平均的なものであるが、戸外遊びが週1回であること、自由遊びの時間がないことに気づかれる。戸外遊びについては、シンガポールは年間を通して気温が30℃を超すため積極的には行われない事情は理解できる。しかし自由遊びの時間がないのはECERS-R、ECERS-Eおよび少なくともOECD諸国の保育観とは相容れない。

OECD諸国では遊具や教材が整えられた環境の中を泳ぎまわり(free float)子どもが自分自身の興味・関心を発展させる「自由遊び」が望ましい形態として位置付けられているが(必ずしも実現されているとは限らない)、そのような保育形態を評価する項目はQRSにはない。実際のところ、SPARK認証で「推奨」を受けた園を含め筆者が訪問した限りのほとんどの園で「自由遊び」は見受けられなかった。これまでの筆者の経験(延べ10園訪問)では、自由遊びを観察できたのはレッジョ・エミリア・アプローチをとるユニークな保育園1園と帰宅を待つ時間帯に訪れたCCC1園のみであった。

まとめ

2000年前後を区切りとしてシンガポールでは就学前教育に注目し、いわば「高度化」に努めてきた。都市国家というサイズの小ささ、官僚主導の行政スタイルは就学前教育機会の整備に関してもスピーディで徹底している。英語を第一言語とする強みを生かして海外の最新の知見を得ることが容易であることが良く作用している。いわゆる公立のKGやCCCはないが、与党の人民行動党を母体とする地域団体が運営する園が大多数を占める状況で、政府方針の上意下達の徹底ぶりは不思議なことではない。

SPARK の認証システムをはじめ外形的なシステムは着々と改革されてきたことが見てとれる。だが、保育の内容は従来の徹底した教師主導型からの変化は容易ではないだろうし、たとえ「教師は子どもの学びのファシリテーター」と表現されようとも、その実践はシンガポールの実情に応じての解釈に基づくものであり、日本での解釈とは様相を異にする。日本では(実現できているかどうかは別にして)子どもの自由度をできるだけ高め「遊び」を中心として知識・技能を身につけさせ学びの構えを育成しようとしている。それが日本人の子ども観・心性ともマッチしている。しかしシンガポールは教師から子どもに知識・技能を教授するにあたりその方法と教材に関して「遊び」の手法を取り入れようとしている。いみじくも NEL が示す「iTeach」というキャッチコピーが示すように「教師である」「私(I)が」「教える(teach)」という図式が見える。それこそがシンガポールの現在の就学前教育なのである。

シンガポールの就学前教育高度化のシステム作りには、その徹底ぶりやスピード感に学ぶべきものがある。並々ならぬ情報収集力、保育者の資質を高め専門性の向上を志向する勢いにも感嘆せざるを得ない。諸外国の幼児教育・保育のシステムや内容をどん欲に吸収しながら自国の状況にあわせて咀嚼し作り変える「シンガポールらしさ」を見ると、「日本らしい」保育とは何かを改めて自問せずにはいられない。

シンガポールの SPARK という保育の質の認証システムから得られる示唆は、評価の対象となる保育内容についてどのような基準を共有するかという、問題提起そのものではなかろうか。いったい「日本らしい」「質の高さ」とは何か。QRS の項目で測定しきれない部分や違和感を明らかにしていくことで、この問いに対する解を発見することができるであろう。

注

- 1) = Trends in International Math and Science Study
- 2) 大和洋子(2008)「シンガポール：“考える学校、学ぶ国家”遊びを通して学ぶ体験学習へ」『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店
- 3) 小松幹典(2011)「シンガポールの政策(2011年改訂版)教育政策編」財団法人自治体国際化協会
- 4) 小川佳万、石森広美(2008)「シンガポールにおける学力観の変容—ジュニアカレッジの教育課程に焦点をあてて—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第56集・第2号
- 5) Ministry of Education (2012) *Nurturing Early Learner: A Curriculum Framework for Kindergartens in Singapore*.
- 6) ECDA のホームページ：<https://www.ecda.gov.sg/>
- 7) <https://www.ecda.gov.sg/sparkinfo/Documents/SPARK%20Briefing%20Slides.pdf>
- 8) 東京大学発達保育実践政策学センター公開シンポジウム 「今、日本の保育の真実を探る～九万人の保育者と千七百カ所の自治体関係者の声を聴く～」2016年9月17日開催
- 9) QRS 作成時、MOE はスケールの著者テルマ・ハームス博士とイラム・シュラージ博士およびスタッフを招聘している。
- 10) 埋橋玲子(2016)「シンガポールの幼児教育・保育(1)概況と背景」『総合文化研究所紀要』pp 57-67

Keywords : シンガポール, 保育の質, 評価スケール, ECDA, SPARK

*この研究は2016年度同志社女子大学の研究助成により執行されました。ここに記して感謝の意を表します。